



H28-32 科学研究費

新学術領域研究事業

「グローバル関係学」とは

グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立

既存の学問でとらえきれない国際社会の現状を
把握し分析できる新しい学問を！

文部科学省が実施する科学研究費助成事業「新学術領域研究」とは、既存の研究分野の枠に収まらない新興・融合領域や異分野連携などの意欲的な研究を適切に見出し支援するために、学術の水準の向上・強化につながる新たな研究領域や革新的・挑戦的な学術研究の発展を促すことを目的として、平成20年度に新設された研究種目です。平成28年度開始の事業として、本領域「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立」(代表：酒井啓子[千葉大学]、略称「グローバル関係学」)が採択されました。

「グローバル関係学」が問題視するのは、現在、中東やアフリカ、アジアや南東欧など、世界各地での紛争、対立が、情報や思想、モノやカネ、人の移動のグローバル化などの影響を受け、複雑に絡み合うことによって、国際的な危機をもたらしていることです。

こうした現代的諸問題が示すのは、20世紀までの主権国家とそれを軸とした国際社会という近代社会科学的「常識」が崩壊し、社会の安定と発展を確保してきた諸制度が機能不全に陥っているという、危機的な事実です。しかし、こうした「新しい危機」ともいえる事象について、分野横断的な包括的視座をもって分析した研究は、いまだ存在しません。

危機に瀕している現代のグローバル社会の問題を読み解くには、主体そのものを分析の対象とするだけでなく、主体内部の関係性や、さまざまなレベル、規模の主体が相互に関係しあう、その関係性の変化と相互関連性を見ていくことが、必要です。本領域の特徴は、さまざまな関係性に光を当てた研究を、狭い範囲の共同体からグローバルなネットワークまで、幅広く行うことにあります。そして、政治学や経済学、地域研究や文化人類学など、既存の学問の枠を超えて、新しいグローバルな危機に対処する応用研究分野を生み出すことを、目指します。

本領域研究の目的は、諸学問の壁を壊し、現実の危機にキャッチアップできる、新しい学問領域を構築することにほかなりません。

国際会議、ワークショップなどを開催します

- 本領域研究では、毎年、国際会議を国内外で開催します。特に重視するのは、本領域研究が日本の地域研究の強みを存分に発揮して、欧米主体の社会科学を相対化し、グローバルな学問の地平を広げることです。本領域研究に集う研究者たちがこれまで構築してきた研究者ネットワークを最大限に活かして、グローバル社会が抱える問題に、世界的に取り組んでいきます。

- 領域のウェブサイトでは、研究会・講演会・国際会議などの情報を、頻繁に更新して公開するほか、公募研究情報や若手研究者のためのワークショップのご案内などを掲載します。ぜひご覧ください。

研究構成（代表：酒井啓子）

- 「国家と制度」
- 「政治経済的地域統合」
- 「規範とアイデンティティ」
- 「越境的非国家ネットワーク」
- 「文明と広域ネットワーク」



連絡先：千葉大学グローバル関係融合研究センター
「グローバル関係学」事務局

ホーム <http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/>
ページ
メールアドレス gblcrss@chiba-u.jp
レス
電話 043-290-2334



若手研究者報告会 報告者募集のご案内

「グローバル関係学」事業では類似の問題意識、研究方向性を持つ若手の研究者の協力を**社会科学、人文科学、自然科学の分野を問わず**幅広く求めており、以下の日程で、「グローバル関係学若手研究者報告会」を開催、**若手研究者の研究報告を公募**します。

日時：2018年2月3日(土)・4日(日) 午前10時～午後4時
場所：早稲田大学キャンパス内11号館701号室（予定）

①報告会で報告を希望する方は、**2017年12月31日迄**に、

①報告題・②500～800字での報告要旨、

③報告者氏名・所属・肩書・開催日時点での年齢を記載の上、

<https://ws.formzu.net/fgen/S79652840/> からお申込みください。

④応募者は、**45歳以下**であること、及び「グローバル関係学」の学問的趣旨を理解しその学術領域確立に貢献しうるとみなされる者として。
「グローバル関係学」 <http://www.shd.chiba-u.jp/glbcrss/outline/index.html>

⑤報告者に関しては委員会にて選考の上、**2018年1月12日（金）まで**にご登録いただいたメールアドレス宛に選考結果をお伝えいたします。

⑥地方からの報告者へは交通費などを負担いたします。



領域内の計画研究

計画研究AO1「**国家と制度：固定化された関係性**」代表：松永泰行(東京外国語大学教授)

非国家主体による越境的なネットワークや、領域内の狭い範囲の社会へと分裂するベクトルに対して、国家がいかにその領域主権国家性の維持を実現するか、また域外の超大国や国際社会からのグローバルな影響、さらに宗教・宗派・民族間の対立など越境の事象の拡散や浸透に対し、いかに防波堤の役割を果たすか、そのメカニズムや成否を解明する。

計画研究AO2「**政治経済的地域統合**」代表：石戸光(千葉大学法政経学部教授、)

国際社会における政治的、経済的地域統合体のメカニズムを、単なる国家間統合体ではなく、国際機関や市民社会、超国家的ネットワークなどグローバル社会における動向と、国家主体内の多様な価値観からなるサブシステムが、国家間の地域統合にどのような影響を及ぼしているかを解明する。

計画研究BO1「**規範のアイデンティティ：社会的紐帯とナショナリズムの間**」代表：酒井啓子(千葉大学教授)

狭い地域を起点とした社会的紐帯に基づくネットワークの、幅広い伸縮を支える社会的アイデンティティと国家の関係、そして国家や社会運動を支える規範意識の変化を見、伝統的社会的紐帯意識によって結び結ばれた地域共同体のアイデンティティが、いかにナショナルなアイデンティティに変質・動員されるか、ナショナルなネットワークを超越・分断して機能するかを解明する。

計画研究BO2「**越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争**」代表：末近浩太(立命館大学国際関係学部教授)

紛争や内戦などの結果として起こる「国家破綻」の実態、およびその権力の空白に出現する非国家主体やその越境的なネットワークの実態分析を通して、その発生原因、展開過程、国際政治における意味と意義を分析する。

計画研究BO3「**文明と広域ネットワーク：社会的紐帯とナショナリズムの間**」代表：五十嵐誠一(千葉大学法政経学部准教授)

国家間関係ではカバーできない、地球規模で共有される諸問題と諸現象が増加する現状を踏まえ、それらの動的展開過程を分野横断的に研究し、個々の社会の基層への影響を捉えつつ、グローバルな問題解決アプローチとグローバル・コモンズの創生の可能を探る。